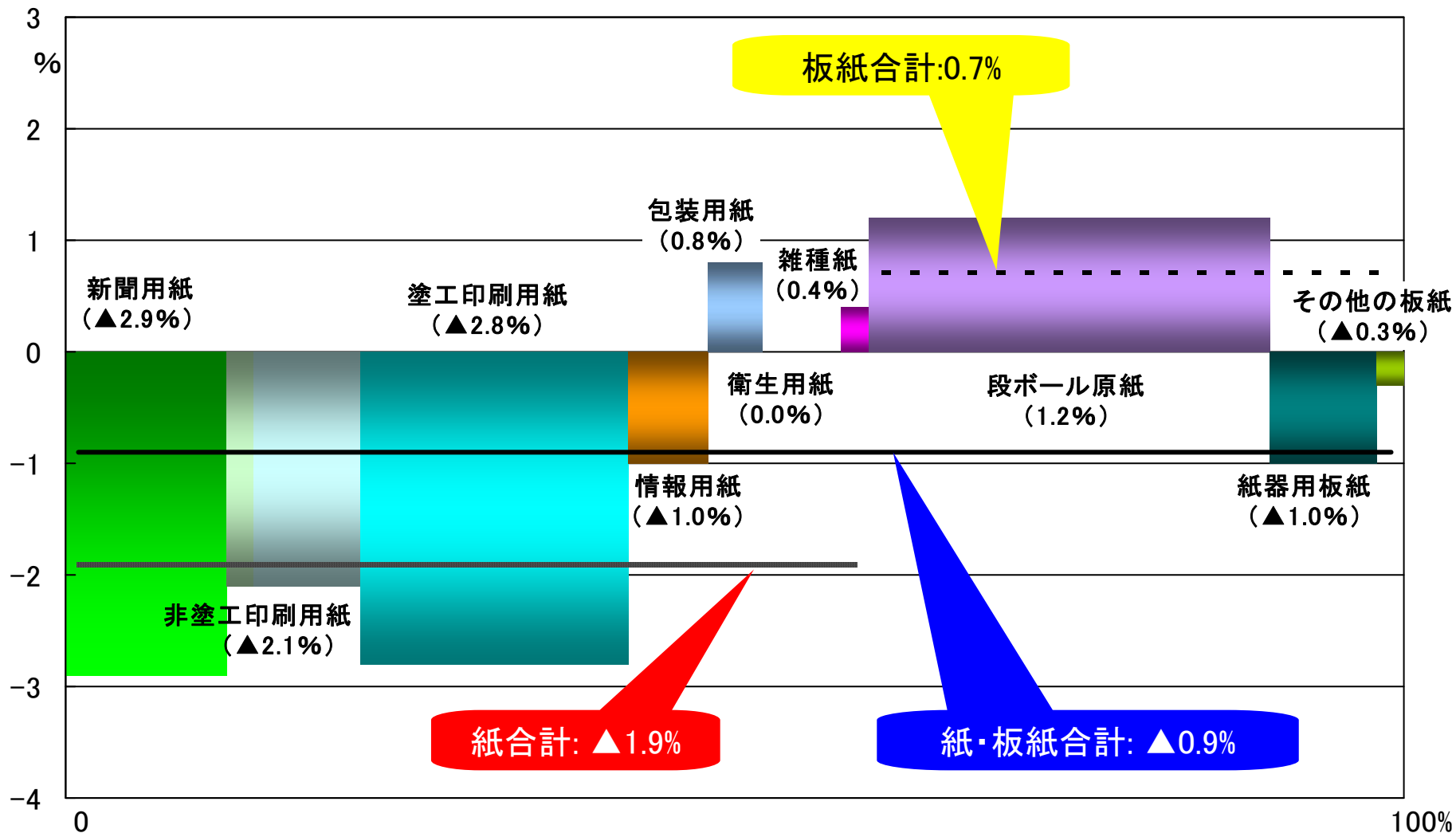
２０１０(平成２２)年紙・板紙内需試算報告

平成22年1月20日

日本製紙連合会

内　容

Ⅰ．2010(平成22)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比

② 2010(平成22)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

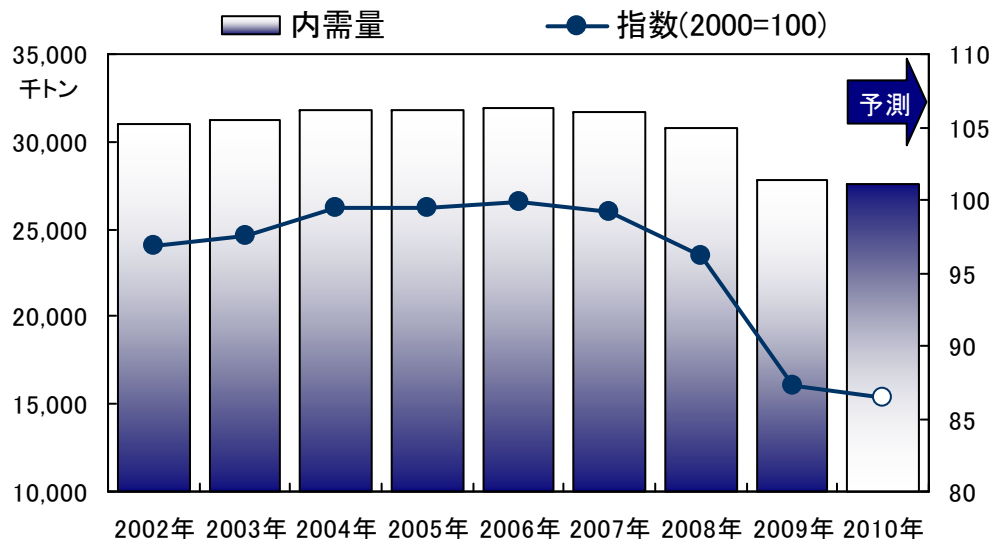
（単位：千トン、%：対前年増減率）

	品 種	2002年		2003年		2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		2009年見込み		2010年見通し	
紙	新聞用紙	3,702	▲ 0.9	3,677	▲ 0.7	3,755	2.1	3,759	0.1	3,764	0.1	3,716	▲ 1.3	3,632	▲ 2.3	3,413	▲ 6.0	3,314	▲ 2.9
	非塗工印刷用紙	3,271	▲ 4.2	3,195	▲ 2.3	3,194	▲ 0.0	3,154	▲ 1.3	3,102	▲ 1.6	3,055	▲ 1.5	2,830	▲ 7.4	2,582	▲ 8.8	2,527	▲ 2.1
	塗工印刷用紙	6,314	▲ 1.0	6,538	3.5	6,807	4.1	6,876	1.0	6,954	1.1	6,817	▲ 2.0	6,512	▲ 4.5	5,699	▲ 12.5	5,541	▲ 2.8
	情報用紙	1,888	1.1	1,937	2.6	1,981	2.3	1,977	▲ 0.2	1,992	0.8	2,005	0.7	2,010	0.2	1,850	▲ 8.0	1,831	▲ 1.0
	印刷・情報用紙計	11,473	▲ 1.6	11,670	1.7	11,982	2.7	12,006	0.2	12,048	0.3	11,878	▲ 1.4	11,352	▲ 4.4	10,130	▲ 10.8	9,899	▲ 2.3
	未ざらし包装紙	595	▲ 4.5	599	0.8	603	0.6	598	▲ 0.8	604	1.0	612	1.3	588	▲ 3.9	489	▲ 16.8	498	1.8
	さらし包装紙	359	▲ 2.0	348	▲ 3.2	352	1.0	354	0.6	362	2.2	368	1.9	354	▲ 3.8	290	▲ 18.3	287	▲ 0.8
	包装用紙計	954	▲ 3.6	947	▲ 0.7	955	0.8	952	▲ 0.3	966	1.5	981	1.6	942	▲ 3.9	779	▲ 17.4	785	0.8
	衛生用紙	1,705	▲ 2.0	1,710	0.3	1,739	1.7	1,796	3.3	1,821	1.4	1,805	▲ 0.9	1,814	0.5	1,804	▲ 0.5	1,804	0.0
	雑種紙	877	3.2	880	0.4	894	1.5	826	▲ 7.6	852	3.1	872	2.4	822	▲ 5.8	707	▲ 13.9	710	0.4
	紙 計	**18,711**	**▲ 1.4**	**18,885**	**0.9**	**19,324**	**2.3**	**19,339**	**0.1**	**19,450**	**0.6**	**19,251**	**▲ 1.0**	**18,562**	**▲ 3.6**	**16,834**	**▲ 9.3**	**16,512**	**▲ 1.9**
板紙	ライナー	5,538	▲ 0.8	5,543	0.1	5,616	1.3	5,616	▲ 0.0	5,621	0.1	5,621	0.0	5,485	▲ 2.4	5,012	▲ 8.6	5,072	1.2
	中しん原紙	3,607	0.2	3,647	1.1	3,694	1.3	3,726	0.9	3,761	0.9	3,776	0.4	3,697	▲ 2.1	3,365	▲ 9.0	3,404	1.2
	段ボール原紙計	9,144	▲ 0.4	9,190	0.5	9,310	1.3	9,342	0.3	9,381	0.4	9,397	0.2	9,182	▲ 2.3	8,377	▲ 8.8	8,477	1.2
	白板紙	2,025	0.8	2,029	0.2	2,037	0.4	2,029	▲ 0.4	2,031	0.1	2,006	▲ 1.3	2,038	1.6	1,890	▲ 7.2	1,872	▲ 0.9
	黄チップ・色板	209	▲ 6.2	210	0.2	209	▲ 0.3	206	▲ 1.4	205	▲ 0.5	192	▲ 6.4	182	▲ 5.0	151	▲ 17.4	148	▲ 2.0
	紙器用板紙計	2,235	0.1	2,239	0.2	2,246	0.3	2,236	▲ 0.5	2,237	0.0	2,198	▲ 1.7	2,220	1.0	2,040	▲ 8.1	2,020	▲ 1.0
	その他の板紙	878	▲ 7.2	881	0.3	880	▲ 0.1	858	▲ 2.5	867	1.0	867	▲ 0.0	776	▲ 10.5	609	▲ 21.5	607	▲ 0.3
	板 紙 計	**12,257**	**▲ 0.8**	**12,309**	**0.4**	**12,435**	**1.0**	**12,435**	**▲ 0.0**	**12,485**	**0.4**	**12,461**	**▲ 0.2**	**12,177**	**▲ 2.3**	**11,026**	**▲ 9.5**	**11,105**	**0.7**
紙 ・ 板紙 計		**30,967**	**▲ 1.2**	**31,194**	**0.7**	**31,759**	**1.8**	**31,774**	**0.0**	**31,935**	**0.5**	**31,712**	**▲ 0.7**	**30,739**	**▲ 3.1**	**27,860**	**▲ 9.4**	**27,617**	**▲ 0.9**

注） 千トン未満を四捨五入しているため、積み上げた数量の計と合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

③ 2010(平成22)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
① 様々なイベント開催 ■ カナダ・バンクーバー冬季五輪開催（2月） ■ 中国・上海国際博覧会開催（5月） ■ FIFAワールドカップ・南アフリカ大会開幕（6月） ■ 参議院選挙（7月） —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響。 ■ 国勢調査（10月） —主に印刷・情報用紙、包装用紙に影響。 **② 予想される財貨・サービスの輸出回復** —主に包装用紙、板紙に影響。 **③ エコカー制度・エコカー減税/エコポイント制度の適用延長（各9月、12月まで）** —主に段ボール原紙に影響。 **④ 3Dテレビの発売** —主に印刷・情報用紙、段ボール原紙に影響。 **⑤ 個包装化/小箱化（主に食品等の個分けギフト）継続** —主に段ボール原紙に影響。 **⑥ 予想される自動車の総販売台数回復** **⑦ 2009年の大幅落込みの反動** —主に包装用の紙・板紙で発生。	**① 不透明な景気情勢（「二番底」懸念）** —デフレ懸念、為替/住宅市場/雇用等の不透明。 **② 構造的マイナス要因の定着/加速** ■ 人口減/少子高齢化 ■ 広告の紙離れ（電子媒体へのシフト） —主に印刷・情報用紙に影響。 ■ 活字離れと出版物の電子媒体へのシフト —主に印刷・情報用紙に影響。 **③ 需要家の用紙関連コスト削減の動き** ■ 軽量品及び低グレード品へのシフト ■ チラシ・カタログ・パンフレット類、取扱い説明書等の部数削減/サイズ縮小 —主に印刷・情報用紙に影響。 ■ 事務経費削減の動き（コピー用紙の節約、投資信託関連の目論見書や保険契約書等の電子化等） —主に印刷・情報用紙に影響。 ■ 省資源・省包装の動き —主に包装用の紙・板紙で発生。

Ⅱ． 2010(平成22)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

「近年の動向」

★紙・板紙の内需は2000年をピークにほとんど横ばいで推移し、頭打ちの状態であったが、2007年より減少に転じた。昨年は、2008年秋以降の大幅な景気後退の影響により、紙、板紙とも年初より大きく落ち込み、紙・板紙合計では3年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は前年を大きく下回ったが、輸入は5年ぶりに増加し、また流通在庫はかつてない規模の減少となった（27頁参照）。

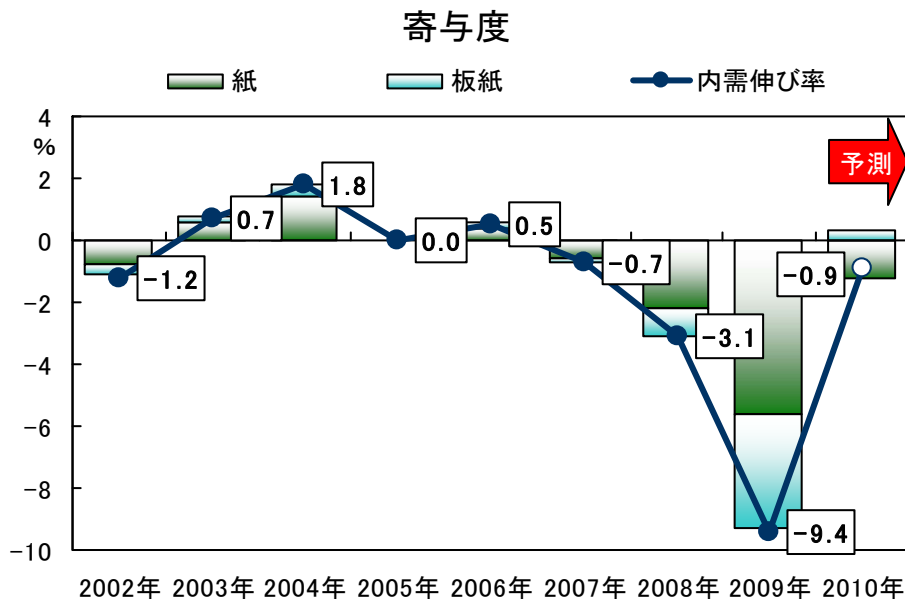
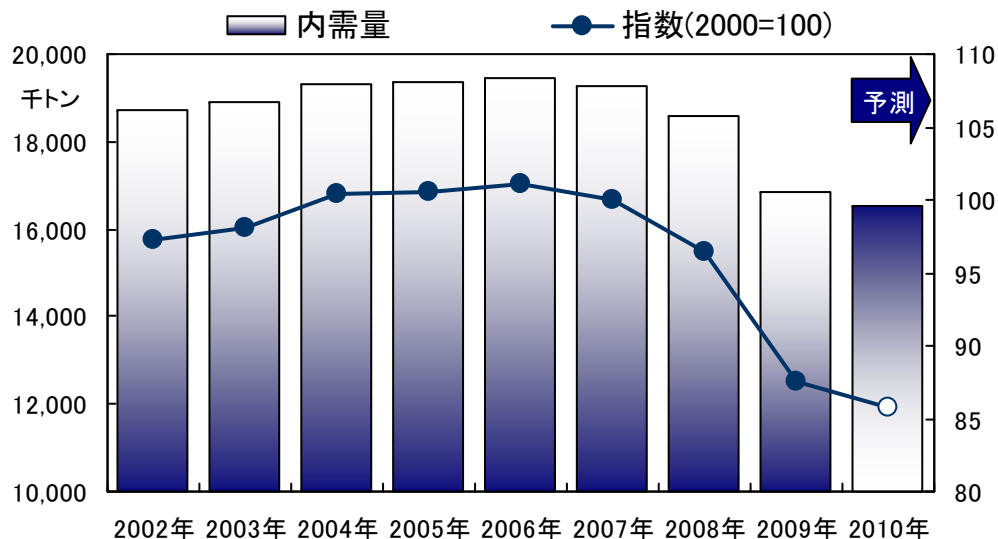
「2010年予測」

☆アンケート、ヒアリング等による2010年のベースシナリオは、板紙、包装用紙は弱いながらも回復（プラス）が見込まれるものの、企業の広告費抑制継続や代替媒体へのシフト等により主力の印刷用紙は不振、新聞用紙も広告不振等による頁数の減少等により、落ち幅は縮小するも前年を下回り、紙・板紙全体では微減と予測した。

☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は前年比0.9%（24万トン）減の2,762万トンとなるが、これは1989年当時の水準。マイナス成長は4年連続。

☆紙・板紙別寄与度は、紙が1.2%減、板紙が0.3%増と、板紙はプラスも、紙はマイナスの見込みである。

（2）紙合計

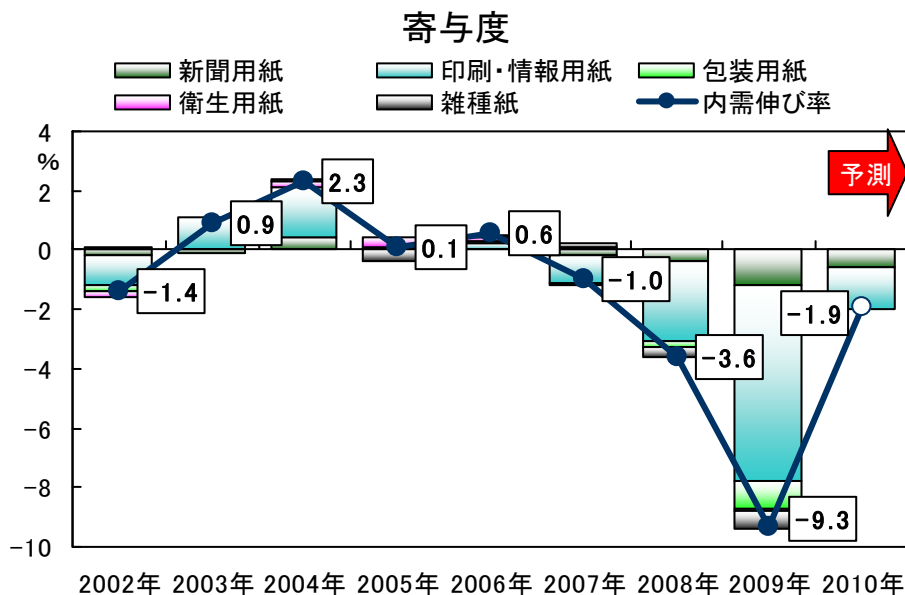
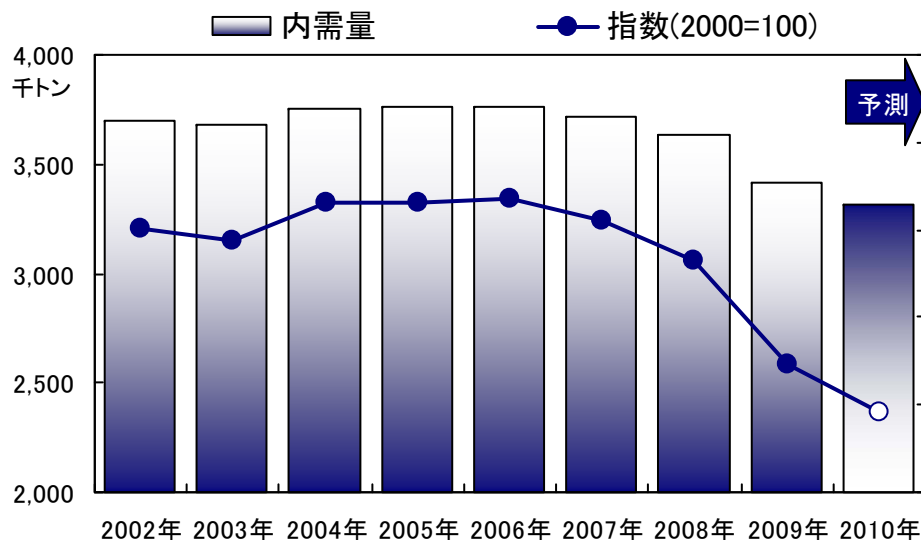
寄与度

「近年の動向」

★紙の内需は、2006年をピークに減少している。昨年は、前年秋からの景気後退の本格化の影響により、主要品種は衛生用紙を除き年初より大幅な落ち込みで推移し、紙合計では3年連続の減少となった。景気循環的な要素が強かった反面、新聞用紙、印刷・情報用紙を中心に構造的要因も影響した。サプライ別には、国内出荷は前年を大きく下回ったが、輸入は印刷・情報用紙を中心に5年ぶりに増加に転じ、また、流通在庫は減少した（27頁参照）。

「2010年予測」

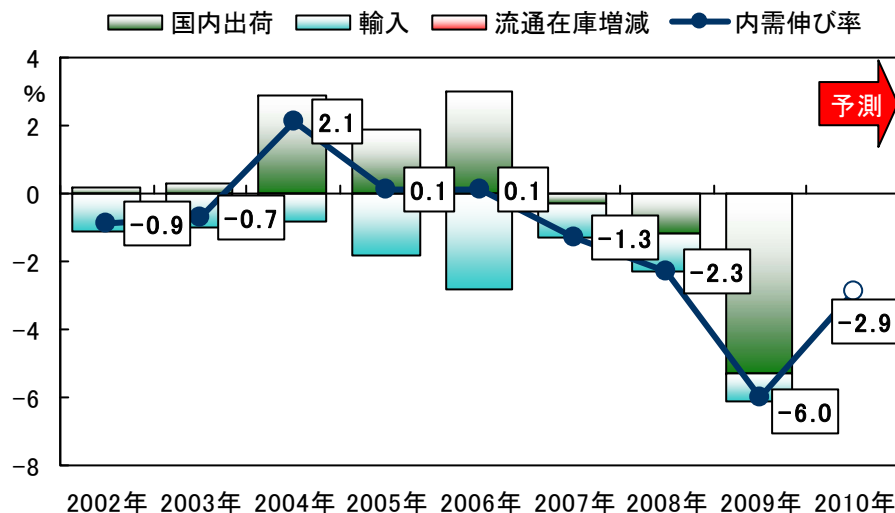
☆主要品種について、包装用紙、雑種紙、衛生用紙は微増ないし横ばいと予測したが、新聞用紙、印刷・情報用紙は落ち幅が縮小するにとどまり、紙全体ではマイナスと予測した。

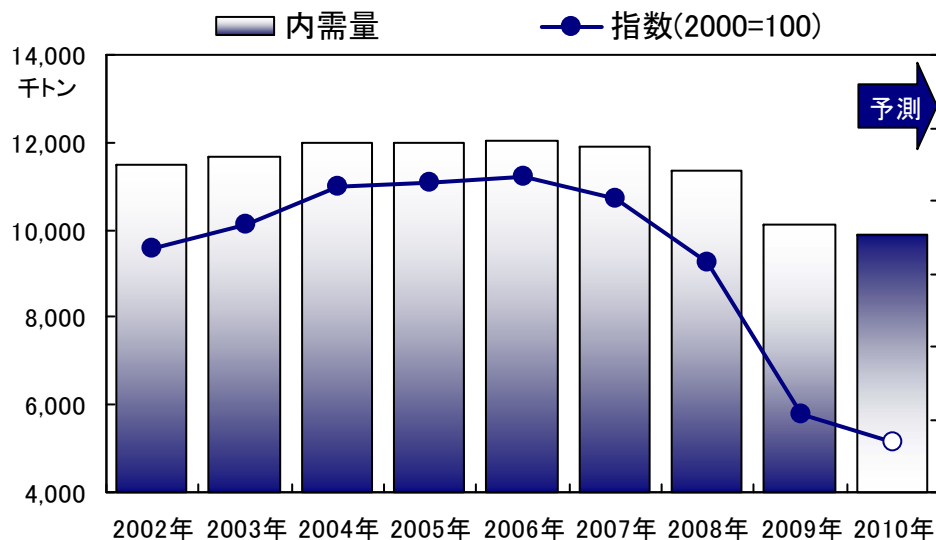
☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,651万トン、前年に対し1.9%減、32万トンの減少となる。マイナス成長は4年連続、過去との比較では1990年代初頭の水準となる。

☆品種別寄与度は、新聞用紙が0.6%減、印刷・情報用紙が1.4%減、その他（包装用紙、衛生用紙等）は0.0%増と、ウエイトの大きい新聞用紙、印刷・情報用紙はマイナスの見込みである。

（3）新聞用紙

「近年の動向」

★2009年の新聞用紙の内需は、近年にない大幅な落ち込みを記録した。情報収集手段の変化(多様化)に伴う読者の新聞離れ、及び広告主の紙媒体からネットへのシフトという構造要因に加え、景気低迷による広告需要全体の急減という循環要因も加わり、発行部数、頁数とも大幅に減少したことによる。

「2010年予測」

☆新聞用紙の内需は、発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は、インターネットの普及・拡大による携帯端末等情報収集媒体の多様化から減少傾向が継続するものと見られる。特に、夕刊の不振、は深刻で、夕刊廃止等の動きも継続するものと予想される。頁数も、広告出稿の回復が見込めないことから、前年割れとなることが予想されるが、2009年までにかなり大幅な頁削減が実施されたこともあって、減少幅は圧縮される見通しである。なお、スポット需要としては、冬季五輪やサッカーのワールドカップ開催等があるが、大きな期待はできない。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し2.9%の減少と予測した。

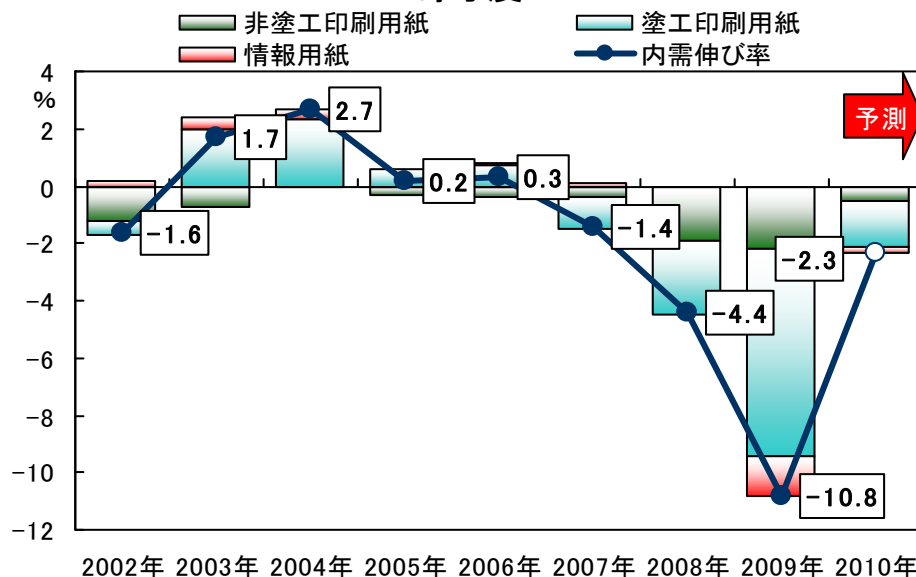
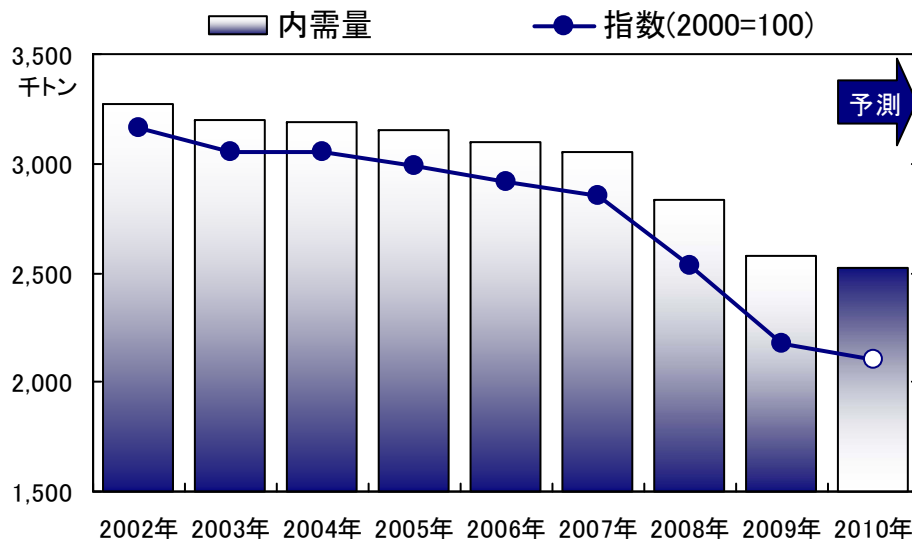
（4）印刷･情報用紙

「近年の動向」

★印刷･情報用紙の内需は、2002年を底に4年連続で前年を上回り、2004年から2006年まで史上最高を更新したが、2007年より減少に転じ、昨年は、前年秋からの景気後退の本格化の影響により、その6割弱を占める塗工印刷用紙を中心に年初より大きく落ち込み、3年連続の減少となった。また、1998年以来1,100万トンを下回った。サプライ別には、国内出荷は大きく前年を下回ったが、輸入は塗工印刷用紙を中心に急増し、史上最高を更新した。

「2010年予測」

☆印刷･情報用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は989.9万トン、前年に対し2.3%減、約24万トンの減少となる。落ち幅は縮小するものの、マイナス成長は4年連続、また、1994年以来16年ぶりに1,000万トンを下回る見込みである。

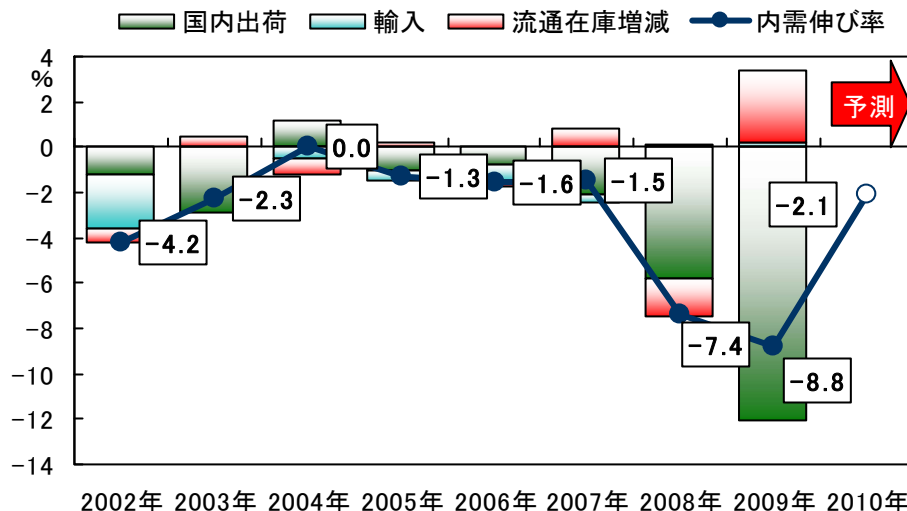
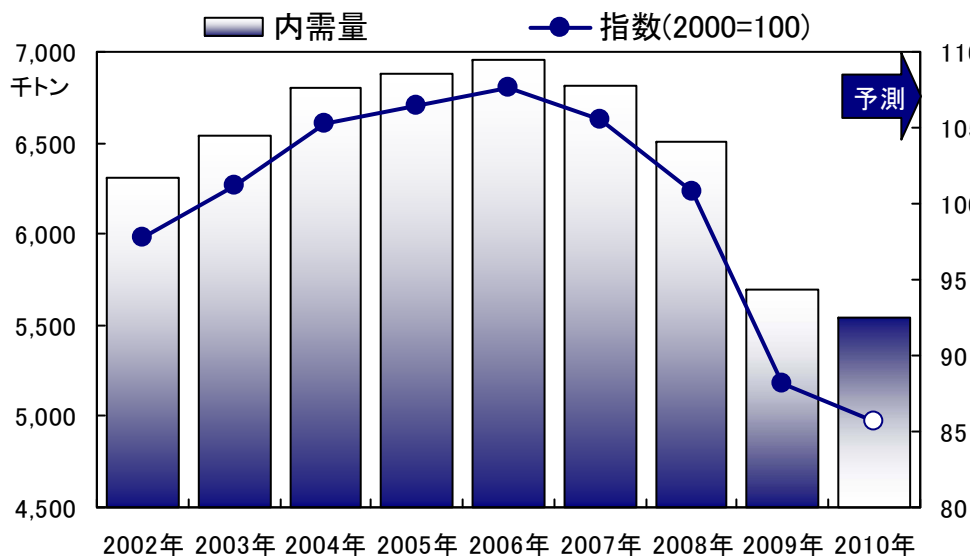
☆品種別寄与度は、非塗工印刷用紙が0.5%減、塗工印刷用紙が1.6%減、情報用紙が0.2%減と、塗工印刷用紙を中心にいずれもマイナスの見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

(4)－① 非塗工印刷用紙

「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は出版印刷向けの不振や塗工印刷用紙へのシフト等により2001年より漸減傾向も、昨年は、前年秋からの景気後退の本格化の影響もあり、前年を上回る落ち込み（9年連続の減少）となった。サプライ別には、9割を占める国内出荷は大きく前年を下回ったが、輸入は2年連続で前年を上回り、流通在庫は減少に転じた。

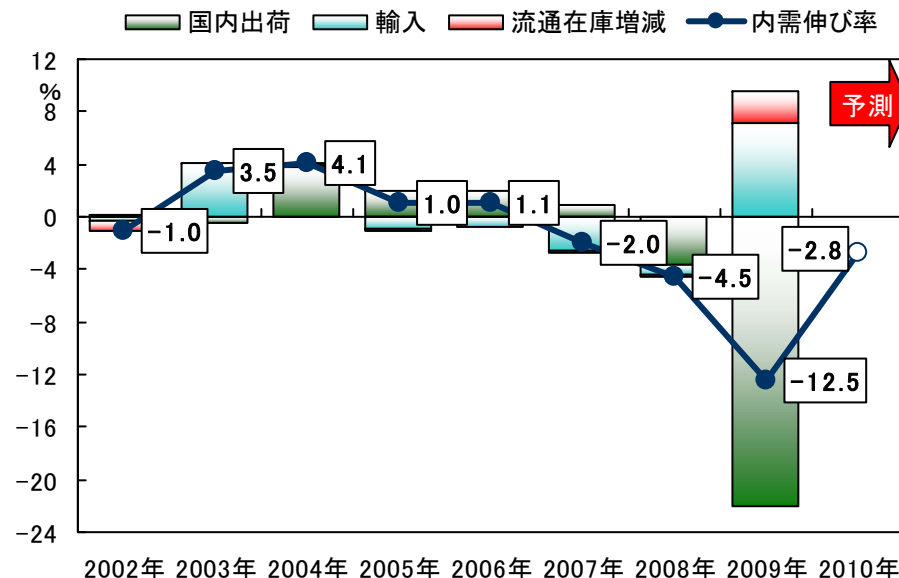
「2010年予測」

☆品種別について、①上級印刷用紙は、汎用性があり、チラシや目論見書・取扱説明書等用途は広範囲に及ぶが、需要家の販売の低迷や小口印刷物の内製化によるPPC用紙へのシフト、電子化に伴う帳票類の減少傾向の継続等により微減。②中・下級印刷用紙は、主たる需要先である出版業界の不振（雑誌を中心とした定期刊行物の発行部数の減少、情報収集のツールとしてインターネット、モバイル端末等電子媒体へのシフト；情報ツールの多様化による活字離れ）等により、引き続き厳しい状況にあり、また、フリーペーパーも広告の不振から期待できない。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し2.1%の減少と予測した。減少幅は縮小するものの、中・下級印刷用紙を中心にダウントレンドは続くと見た。

（4）－ ② 塗工印刷用紙

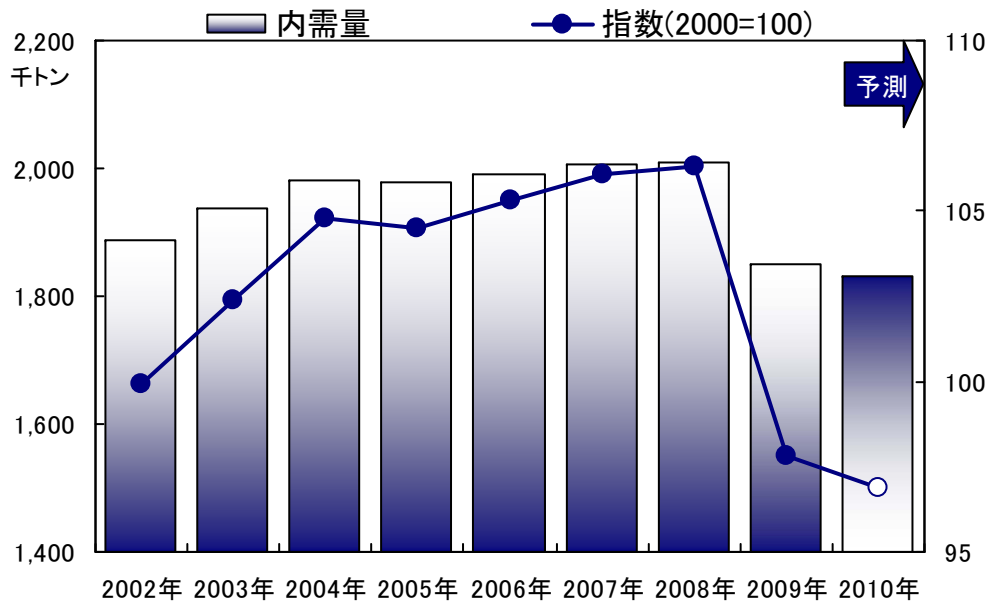
「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は販促用チラシ・カタログ・パンフレット類等商業印刷向けを中心に拡大、また、非塗工印刷用紙からのシフト等もあり、2003年より4年連続で史上最高を更新し、印刷・情報用紙を牽引したが、2007年より減少に転じた。昨年は、前年秋からの景気後退の本格化の影響により、年初より大きく落ち込んで推移し、3年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は前年を大きく下回ったが、輸入は5年ぶりに増加に転じ、史上最高を更新した。また、流通在庫は減少した。

「2010年予測」

☆景気は弱いながらも回復が見込まれるものの、企業収益の低迷(販売不振)を背景とした需要各社の継続的なコストダウンにより、広告宣伝費の抑制が見込まれるため、チラシ需要の減少（出稿枚数減や版型の縮小)を始めとして、カタログ・パンフレット類の部数及びアイテム数の減少等商業印刷向けは全般的に期待できる状況にない。また、インターネット等、他の広告媒体へのシフトや、グレードダウン(SC紙、微塗工紙、LWCへのシフト)、低米坪化等も引き続き予想される。

☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し2.8%の減少と予測した。落ち幅は縮小するものの、企業のコストダウンによる広告宣伝費の抑制を主因に、主力品種は微塗工紙の横ばいを除き、いずれも前年を下回ると見た。

（4）－③ 情報用紙

寄与度

「近年の動向」

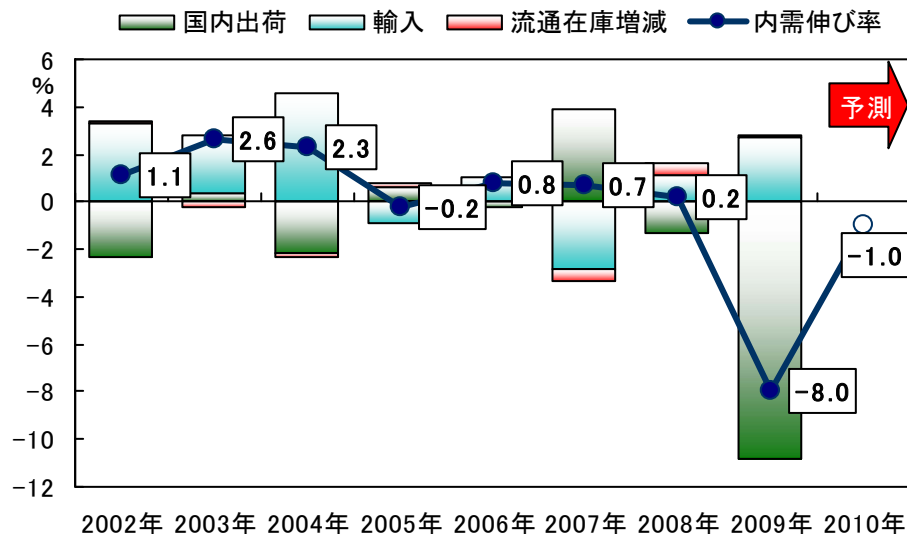
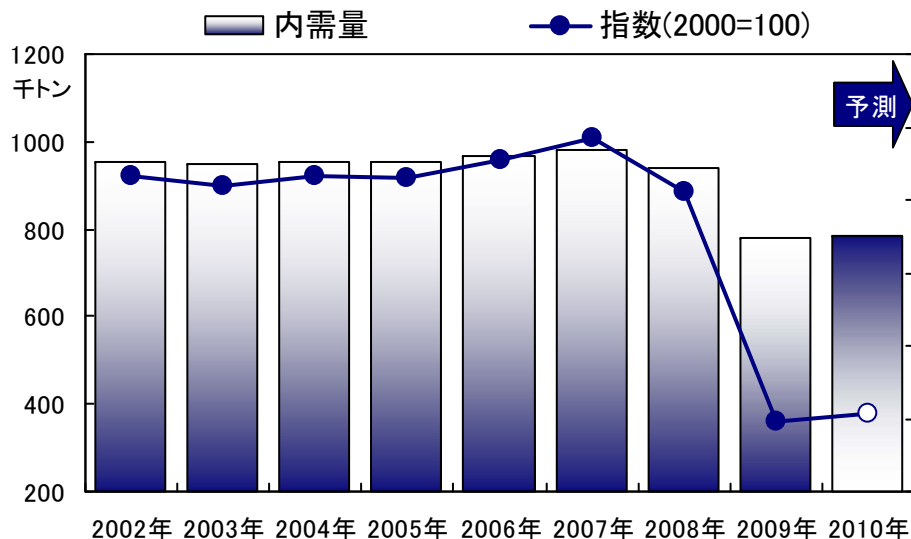
★情報用紙の内需は、近年、PPC用紙を中心に堅調に推移してきたが、2009年は大幅に減少した。同年以前から不振だったフォーム用紙や複写原紙が引き続き前年割れとなる一方、企業がコスト削減を目的に、コピー枚数の制限や両面コピーの推進を進めたことから、PPC用紙も減少に転じている。

「2010年予測」

☆PPC用紙は2009年はマイナスとなったものの、汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。企業のコスト削減姿勢は依然厳しいが、既に削減が一巡した感もあり、2010年については、前年と同水準程度は期待しうる。一方、フォーム用紙は、デザインフォームについてDPS向けの伸びは期待できるものの、電子化やカット紙化の進展により、全体として減少継続が見込まれる。複写原紙についても、帳票類の減少（単票化、ペーパーレス化）等により、減少が続く見通しである。

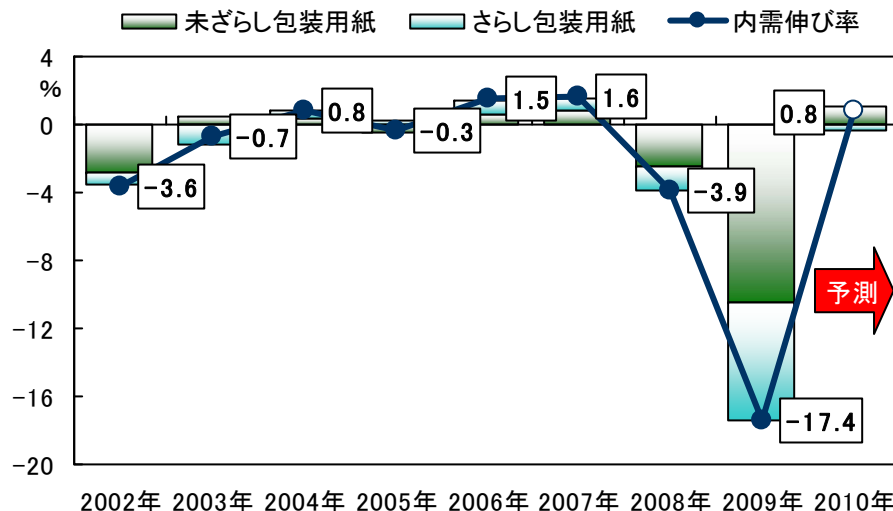
☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し1.0%の減少と予測した。

(5) 包装用紙

寄与度

「近年の動向」

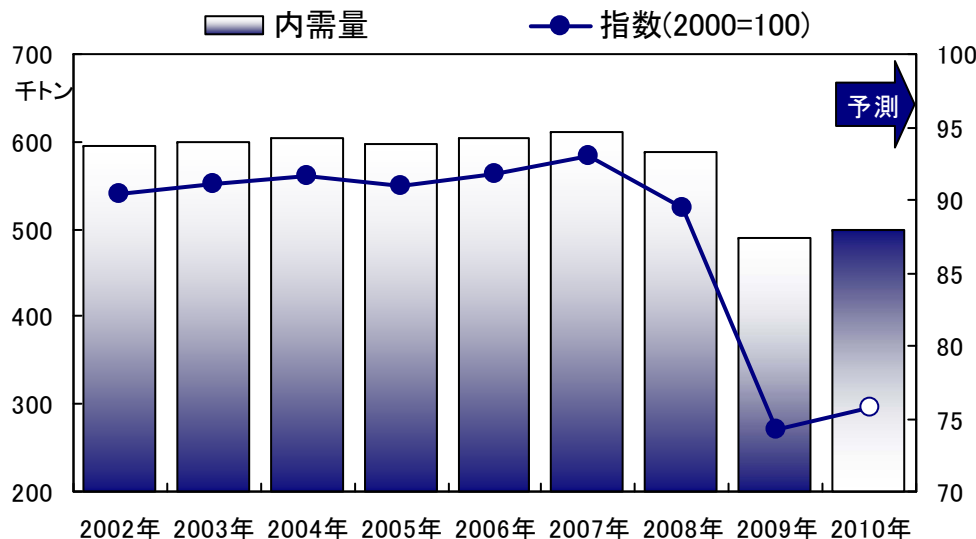
★包装用紙の内需は、2002年以降、2007年までの間はほとんど横ばい(95万トン前後)であった。品種別には、未ざらし包装用紙は底ばい状態であったが、さらし包装用紙は微増傾向で推移してきた。2008年は秋以降の急速な景気悪化により前年を下回り、2009年は景気低迷の影響から未ざらし包装用紙、さらし包装用紙とも急減した。

「2010年予測」

☆品種別にみると、①未ざらし包装用紙は、景気低迷の影響から大幅に減少した産業資材向けの回復により重包装用紙袋向けを中心に反動増が予想される。
②さらし包装用紙は、個人消費の大幅な持ち直しは期待できないことから手提袋・角底袋用を中心に僅かながら前年を下回るものと見られる。

☆包装用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は78.5万トン、前年に対し0.8%の増加となる。3年ぶりに増加に転じるものの、2007年に対しては19.9%、19.5万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、未ざらし包装用紙が1.1%増、さらし包装用紙が0.3%減の見込みである。

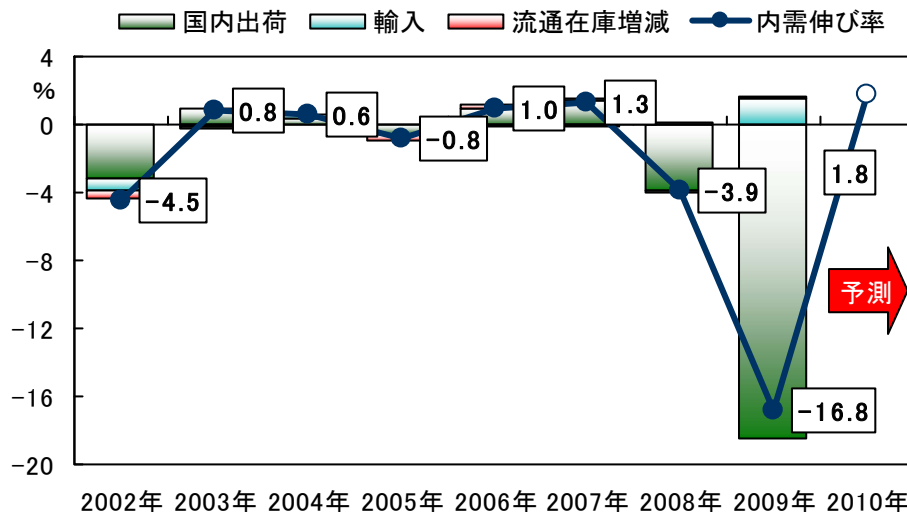
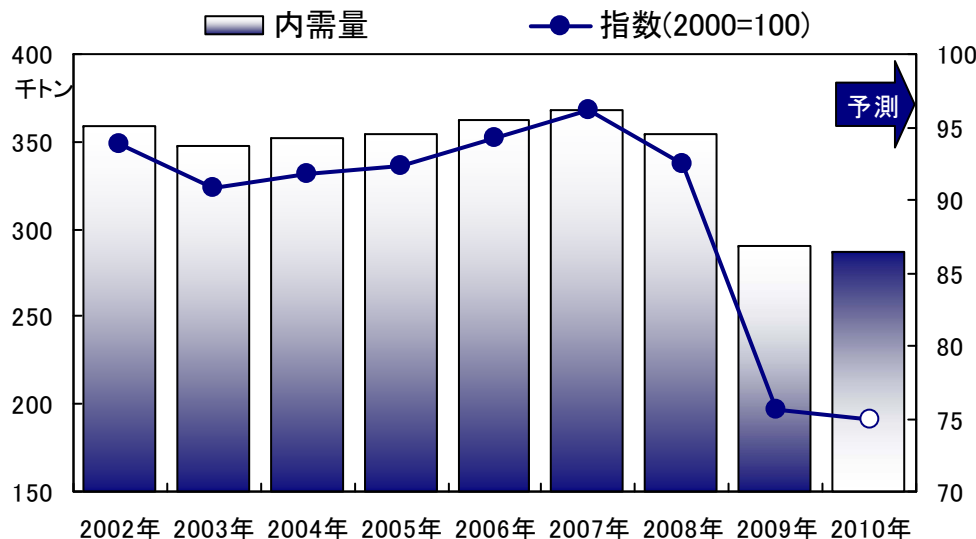
☆詳細については当該品種頁参照。

(5)－① 未ざらし包装用紙

「近年の動向」

★未ざらし包装用紙の内需は、2002年以降、2007年までの間はほとんど横ばい(60万トン前後)で推移した。しかし、2008年は秋以降の景気後退による需要業界の低迷等により減少、2009年は主力の重袋用両更クラフト紙を中心に急激な落ち込みとなった。

「2010年予測」

☆品種別にみると、全体の約6割を占める①重袋用両更クラフト紙は、米麦・製粉等の食品向けは前年に続き比較的堅調であり、景気低迷の影響から大幅に減少した産業資材向けについても合成樹脂向けを中心に回復に転じることから反動増が予想される。②その他両更クラフト紙は、企業のコスト削減や環境への配慮を目的とした、さらし包装用紙からのシフト傾向が継続することに加え、国勢調査用の封筒用の需要増等により増加が予想される。製紙用ワンプは、製紙各社の印刷用紙の減産継続により前年を下回ることが見込まれる。

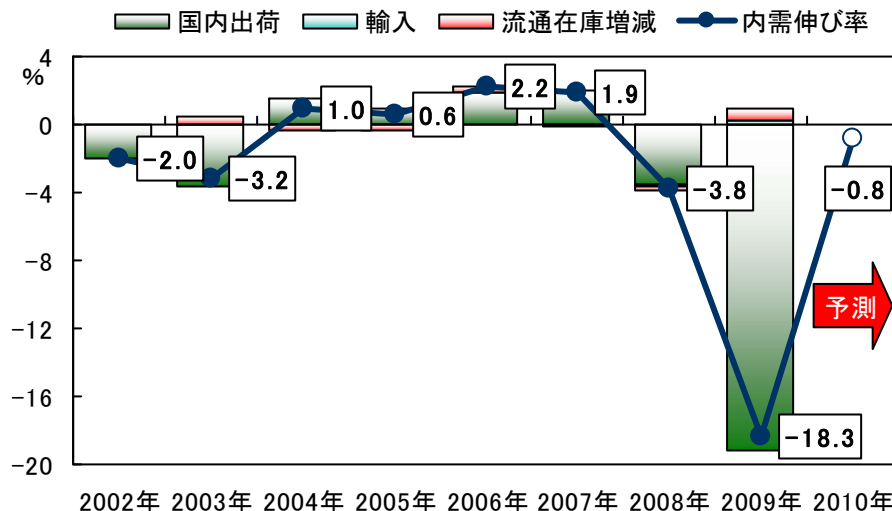
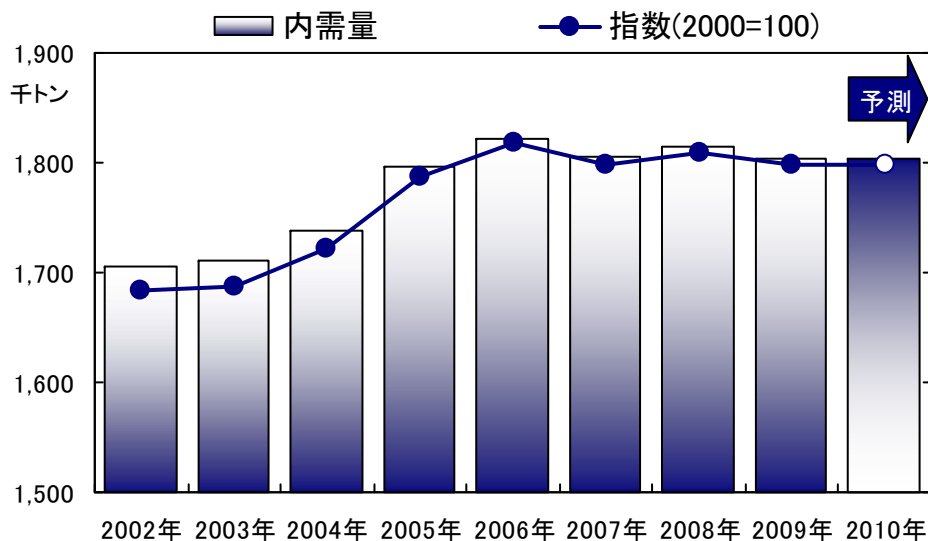
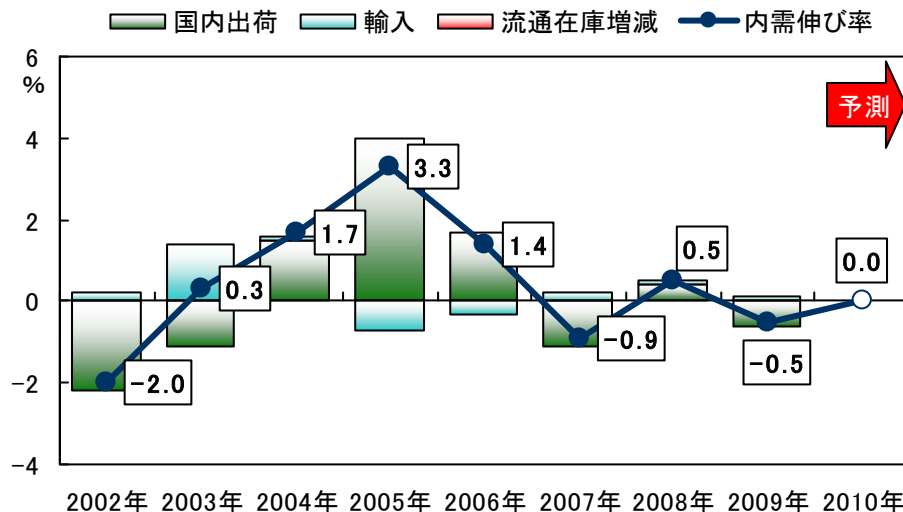
☆以上を勘案し、未ざらし包装用紙の内需は前年に対し1.8%の増加と予測 した。

(5) – ② さらし包装用紙

「近年の動向」

★さらし包装用紙の内需は、2003年を底に2007年までの間は微増傾向で推移してきた。牽引したのは、手提袋用と広範な分野に使用される加工用であり、包装用は不振であった。2008年は秋以降の景気後退による需要業界の低迷等により減少、2009年は景気低迷の影響から2割近い急激な落ち込みとなった。

「2010年予測」

☆品種別にみると、①さらしクラフト紙については、手提袋用は、低調な個人消費や百貨店や高級専門店、ブランドショップの販売不振、また、企業のコスト削減や環境への配慮を目的とした未ざらし包装用紙へのシフト傾向の継続もあり、減少が予想される。封筒用も、引き続き企業の経費削減やDMの圧着ハガキ、電子メールへのシフトにより減少が予想される。②純白ロール紙については、包装用は、百貨店の低迷や省包装化等の影響により、また、加工用も、需要業界の急速な回復は期待できず、減少が見込まれる。

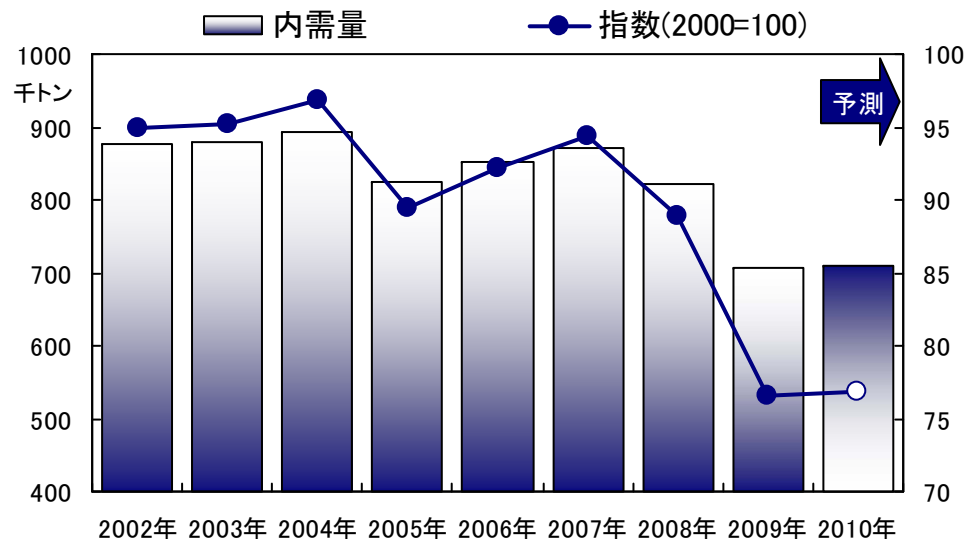
☆以上を勘案し、さらし包装用紙の内需は前年に対し0.8%の減少と予測した。

(6) 衛生用紙

「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、2006年をピークにほぼ横ばい傾向にある。2009年も景気低迷により紙・板紙の主要品種が軒並み前年を大きく割り込むなか、微減ながらほぼ横ばいにとどまり生活必需品としての底堅さを示した。

「2010年予測」

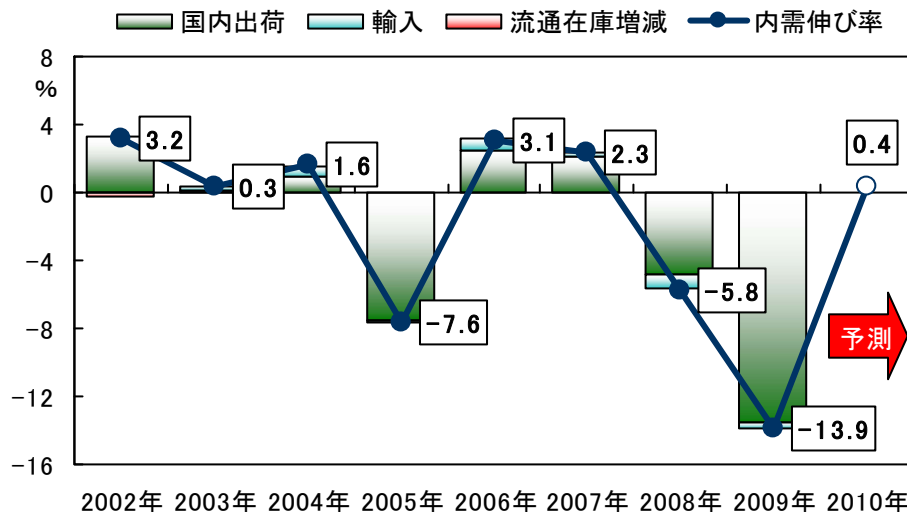
☆衛生用紙は、景気の急回復が見込めないことから消費者の節約志向や買い控え等は継続すると見られるが、生活必需品として底堅く、トイレットペーパー、ティシュペーパー等主要品種はいずれも前年ほぼ横ばいと予想される。品種別にみると、ティシュペーパーは、花粉飛散量が例年より少ないとみられることや節約志向の影響をトイレットペーパー以上に受けるといったマイナス要因が懸念されるが、需要が大きく落ち込むことはないものと予想される。また、タオル用紙は、新型インフルエンザの影響による需要増が一巡するものの、衛生意識の高まりを背景に増加が予想される。

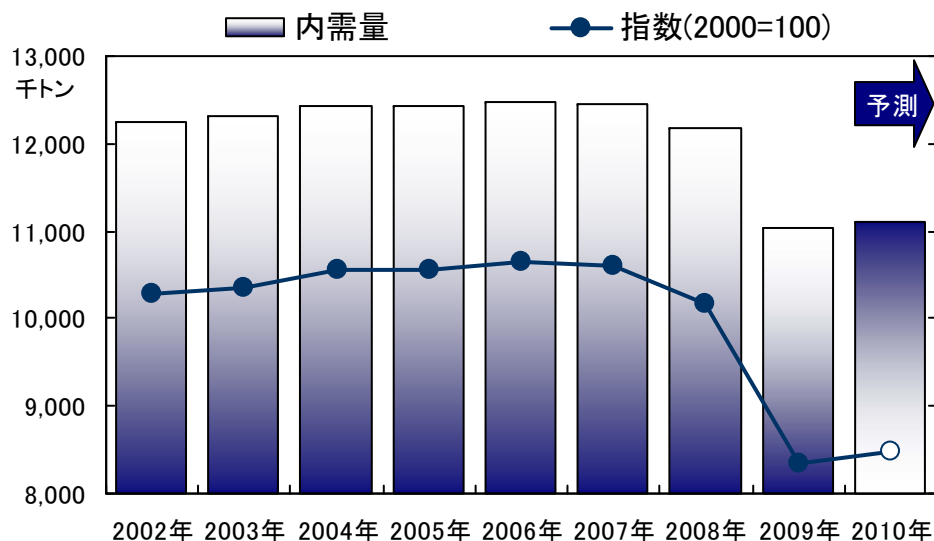
☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年横ばいの0.0%と予測した。

(7) 雑種紙

「近年の動向」

★雑種紙の2009年の内需は、①工業生産の落ち込みや物流量の減少等により、積層板原紙や接着紙原紙等が大幅減となり、②住宅市場不振で建材用原紙も急減、③カップ式自動販売機の減少等から食品容器原紙も前年割れとなるなど、総じて低調だった。

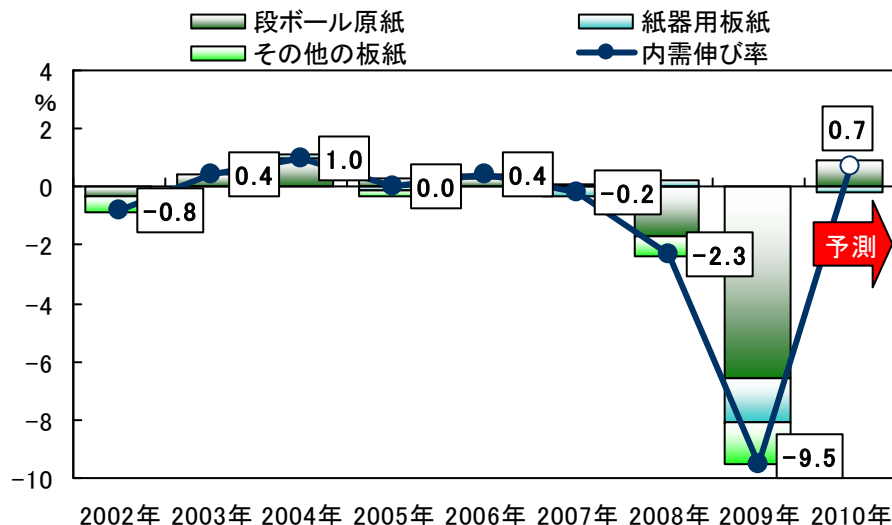
「2010年予測」

☆2010年は品種によって明暗が分かれそう。①積層板原紙や接着紙原紙は、需要が持ち直しており、2009年の落ち込みが急だったこともあって、プラスが期待できる。ただし、2008年以前の水準にまで戻ることは困難と見られる。②建材用原紙は、住宅市場に早期の回復は期待できず、仮に着工が回復しても、壁紙の需要等に結びつくのは遅れることから、引き続き減少が見込まれる。③食品容器原紙については、自販機設置台数に回復は見込めず、プラスチック容器との競合もあって、全体としてマイナスとなる見通し。

☆以上を勘案し、雑種紙の内需は前年に対し0.4%増と予測した。

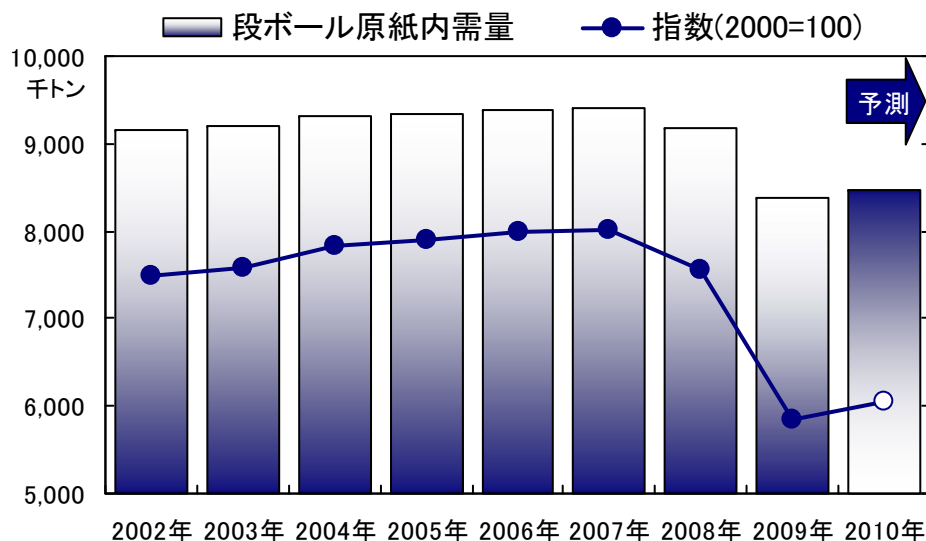
(8) 板紙合計

「近年の動向」

★板紙の内需は2003年以降ほぼ横ばいであったが、昨年は、前年秋からの景気後退の本格化の影響により、主力の段ボール原紙を中心に前年を上回る大幅な落ち込み(3年連続の減少)となった。サプライ別には、紙同様、国内出荷は前年を大きく下回ったが、輸入は量的には少ないものの、3年ぶりに増加し、流通在庫は減少した(27頁参照)。

「2010年予測」

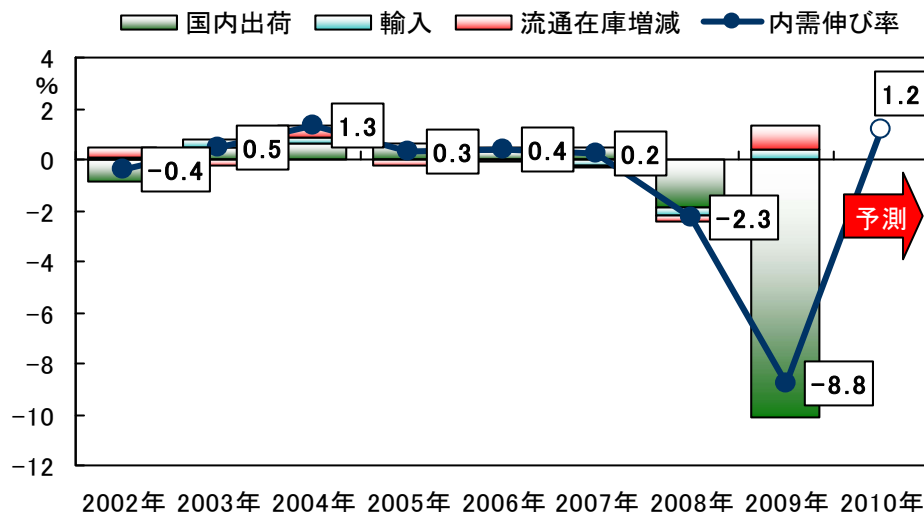
☆主要品種について、主力の段ボール原紙はプラスと予測したが、紙器用板紙、その他の板紙は微減とした。ただし、ウエイトの大きい段ボール原紙が貢献し、板紙全体では微増と予測した。

☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,111万トン、前年に対して0.7%増、約8万トンの増加となる。4年ぶりのプラス成長も、過去の実績と比較すると、1989年当時の水準となる。

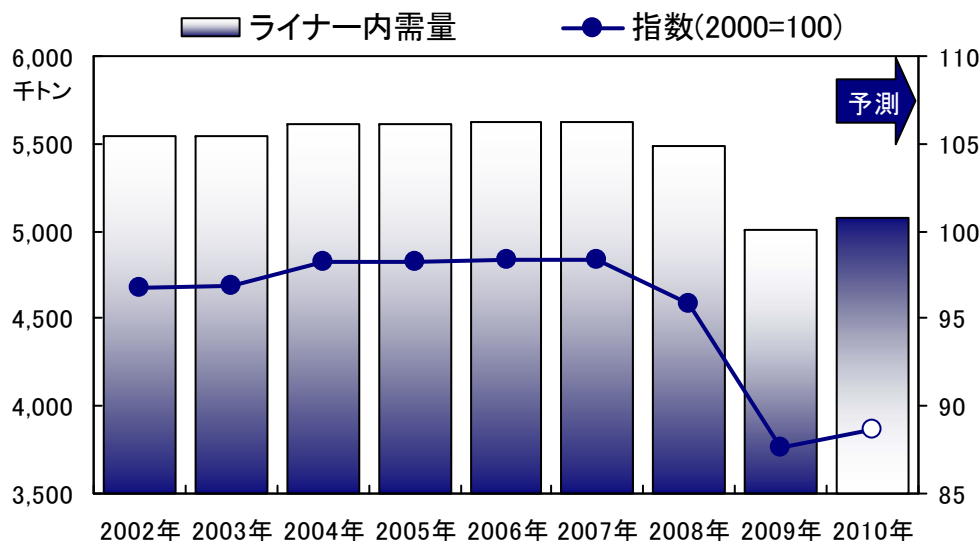
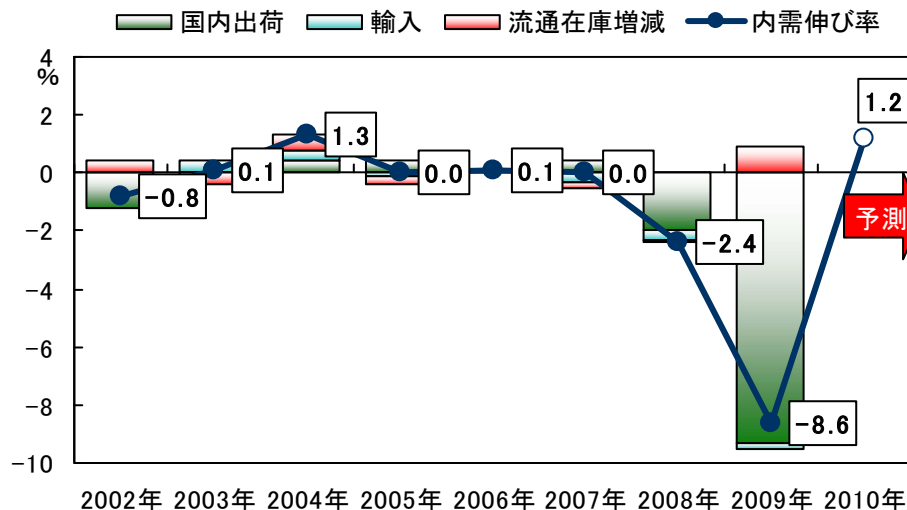
☆品種別寄与度は、段ボール原紙が0.9%増、紙器用板紙が0.2%減、その他の板紙が0.0%減と、ウエイトの大きい段ボール原紙はプラスも、その他(紙器用板紙、その他の板紙)はマイナスの見込みである。

(9) 段ボール原紙－①

「近年の動向」

★段ボール原紙は、2003年以降景気回復に伴い微増で推移してきたが、2008年は年後半の急激な経済状況の悪化等により6年ぶりのマイナスとなった。2009年は前年からの長引く景気低迷の影響から需要は更に減退し、大幅なマイナスとなった。需要業界のコスト削減意識から、段ボール原紙の薄物化は進行中であり、その結果、段ボールシートの生産に比べ段ボール原紙の需要は低くなる傾向にある。

「2010年予測」

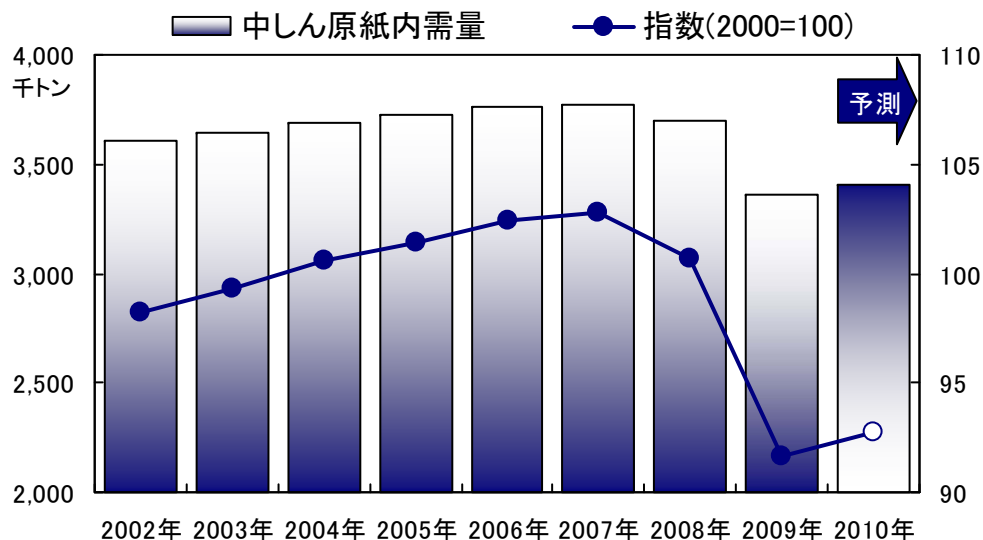
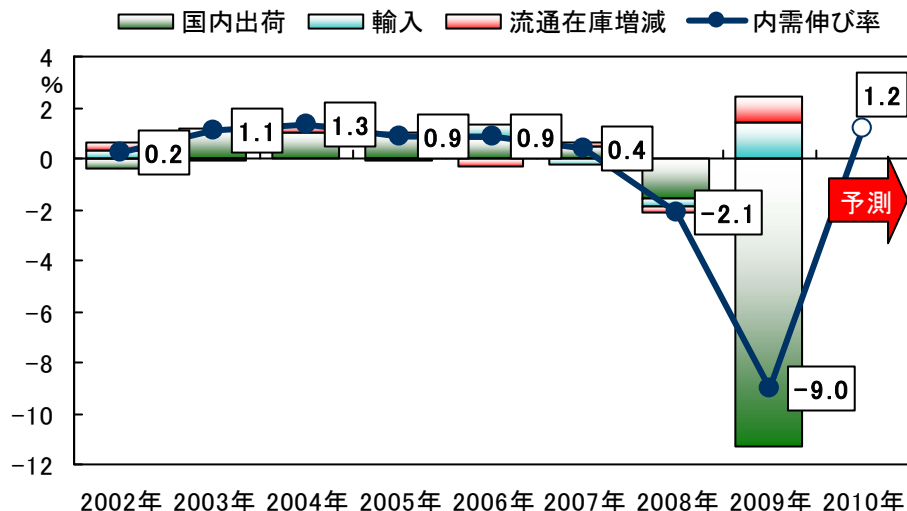
☆段ボールシート生産は、全段連の段ボール需要予測に基づき1.5%増とみた。加工食品等の食品向けは前年を上回り、前年落ち込みが大きかった工業製品等の電気・機械器具向けも増加が予想される。ただ一方で需要業界のコスト意識は依然強く、薄物化等も引き続き予想される。

☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し1.2%の増加(ライナー1.2%増、中しん原紙1.2%増)と予測した。

(9) 段ボール原紙－②

「2010年予測：主要需要分野の動向」

☆加工食品(2009年1−10月需要部門別構比:41.5%)は、生活必需品というメリット(不況の影響を受けにくい)に加え、節約志向と内食化傾向を背景にレトルト食品や冷凍食品等で需要の増加が見込まれることや、菓子関係が商品価格の引下げが奏功しチョコレートを中心に需要増が期待できることもあり、前年を上回ることが予想される。飲料関係では、ビールは、「第三のビール」が内食化を背景とした家庭内需要の高まりや低価格志向から拡大しているものの、「ビール」、「発泡酒」は減少傾向が続くため、ビール類全体ではあまり期待できない。清涼飲料は、コーラ飲料等の炭酸飲料は増加が見込まれるも、ミネラルウォーターや茶系飲料等は伸び悩んでいることから、全体としては伸びはあまり期待できない。

☆青果物(構成比:12.5%)は、輸入野菜の回復などマイナス要因はあるものの、一方で内食化傾向の継続がプラスに寄与すると予想され、また前年のユーザーの在庫調整や冷夏・大型台風等の影響による低水準の反動も期待されることから、増加が予想される。

☆電気器具・機械器具(構成比:8.1%)は、前年の大幅減による反動増や、エコカー減税やエコポイント制度の効果、地上デジタル放送移行を背景に好調を維持する薄型テレビの買い替え需要等もあり、増加が見込まれる。

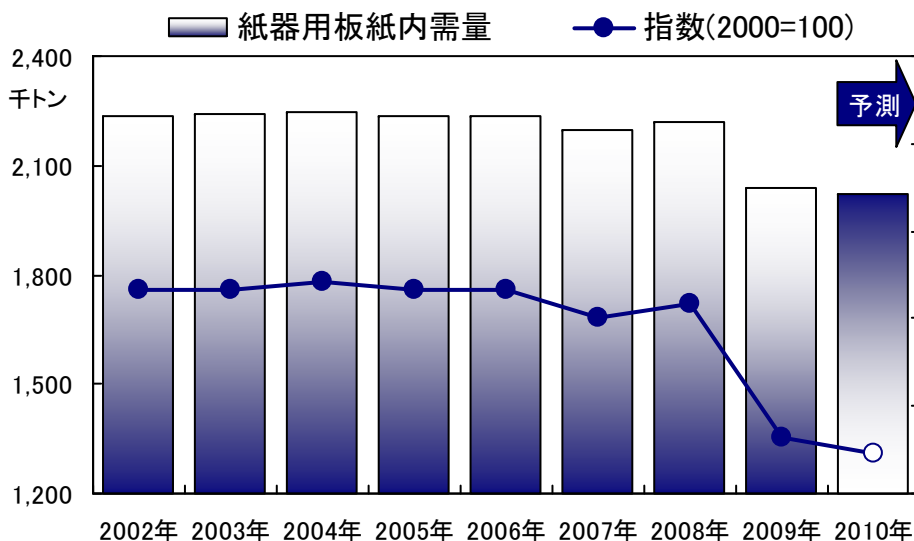
(9) 段ボール原紙－③

「2010年予測：主要需要分野の動向」

☆薬品・洗剤・化粧品（構成比:5.9%）は、洗剤の液体化に伴うケース面積の縮小等のマイナス要因はあるものの、健康食品が生活習慣病関連商品で好調に推移していることや、肥満対策を中心とした漢方薬市場の続伸、新型インフルエンザ関連での需要もあり、増加が見込まれる。

☆陶磁器・ガラス製品・雑貨（構成比:5.8%）は、薄型テレビ用ガラスは堅調に推移し、自動車用ガラスも回復が予想されるものの、住宅需要の長引く低迷や廉価な輸入品の流入等を背景に、減少が予想される。

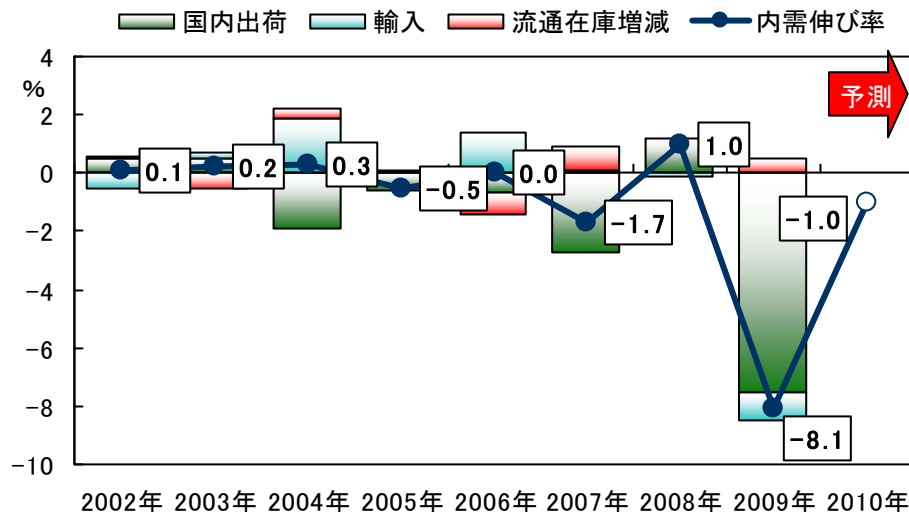
☆通販・宅配（構成比:3.0%）は、消費者の節約志向を追い風にネット通販を中心に拡大しており、また新規参入企業も増加していることから、今後もこの拡大傾向は継続すると予想される。

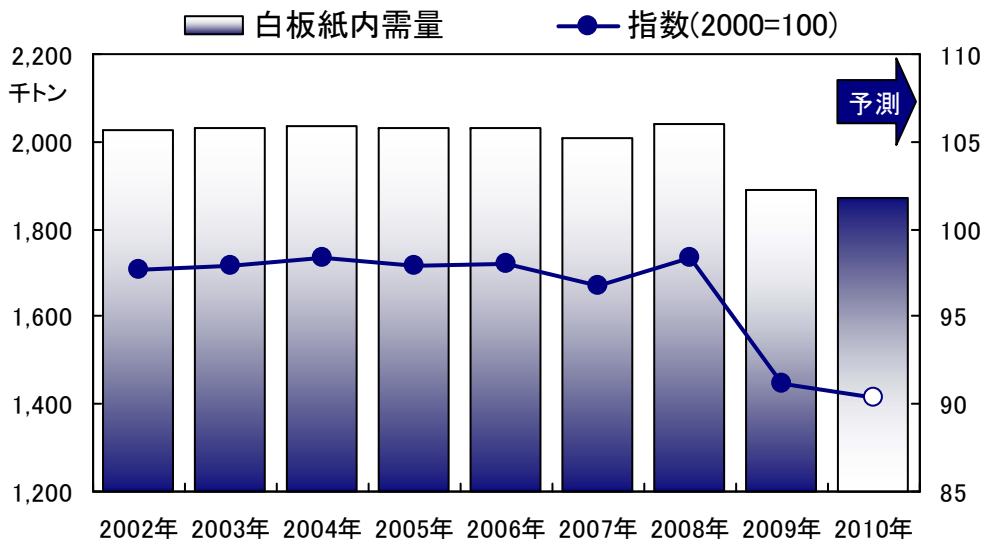
☆繊維製品（構成比：2.3%）は、一部低価格品で需要増が見込まれるものの、スーパー、百貨店の衣料品販売は概して景気低迷の影響から不振が続いており、また輸入品に押されていることもあり、減少が予想される。

(10) 紙器用板紙－①

「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は、2002年以降ほぼ横ばいで推移していたが、2007年は価格修正をきっかけに薄物化、省包装、軟包装へのシフトにより1.7%減となった。2009年は長引く景気低迷から箱需要は大幅に減少し、また新型インフルエンザや冷夏等の影響も加わったことから、8.1%減と大きく落ち込んだ。

「2010年予測」

☆景気低迷を背景にユーザーのコスト意識は依然強く、薄物化や箱の小型化、他素材へのシフト等は引き続き行われると予想される。また一部需要先である印刷分野においても、広告費削減や出版不振の継続を背景に減少が見込まれる。

☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し1.0%の減少（白板紙0.9%減、黄・チップ・色板紙2.0%減）と予測した。

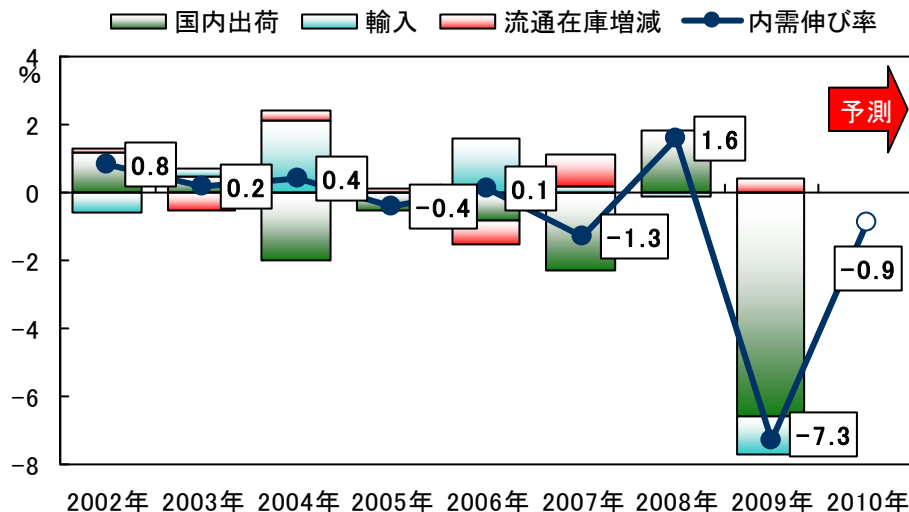
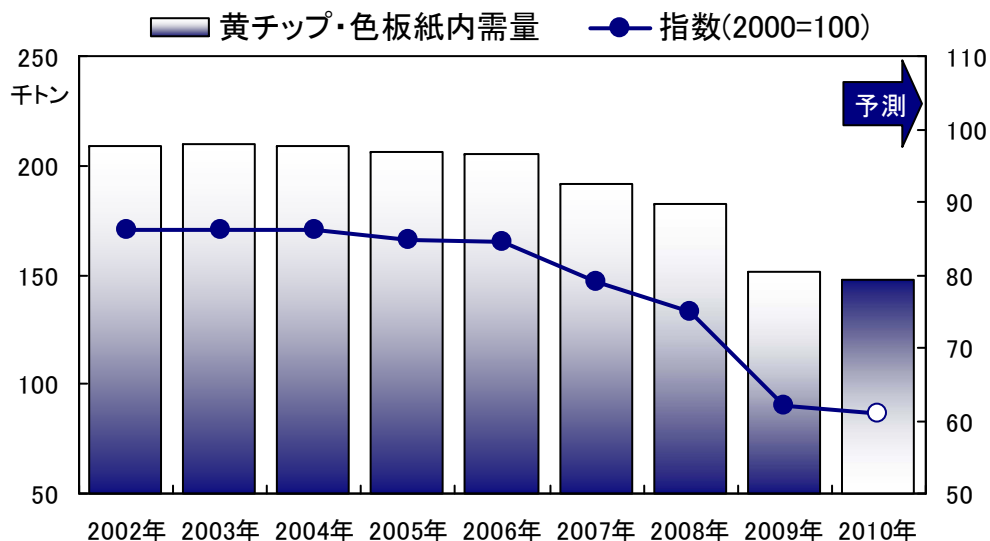
(10) 紙器用板紙－②

「 2010年予測：主要需要分野の動向」

☆食品は、景気低迷を背景に内食化及び低価格(節約)志向が継続するとみられる。その中で、低価格で即食に対応したレトルト食品はカレー類を中心に増加が見込まれ、また菓子関係では商品の値下げ等を背景にチョコレートを中心に需要を伸ばすことが予想される。ただ一方で、消費者の買い控えは継続すると予想され、更に「お徳用パック」など軟包装の加速や外箱刷新による箱の小型化、さらには大手スーパーのPB商品のように外箱廃止の動きもあり、食品全体では大きな伸びは期待できない。

☆医薬品は、特保を中心とした健康関連商品や漢方薬等は増加が期待されるものの、前年の薬事法施行関連特需の反動は大きく、全体では減少が見込まれる。

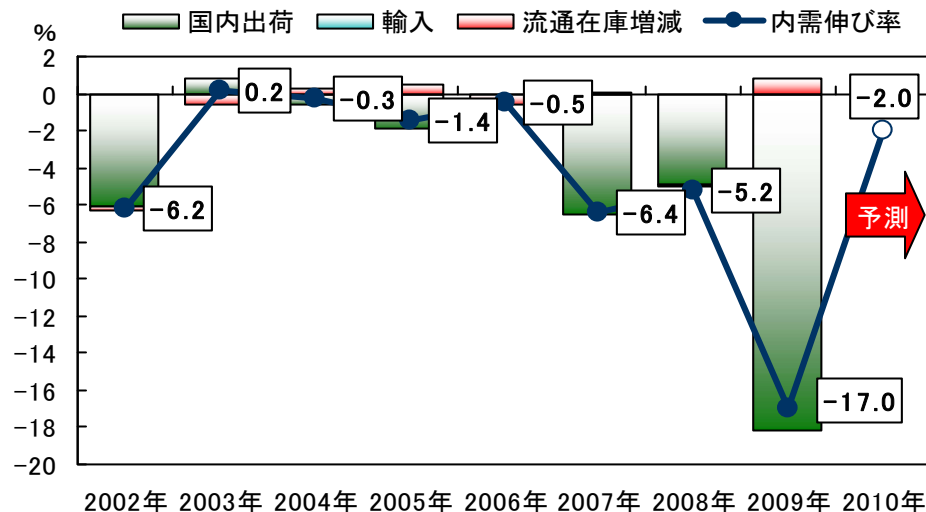
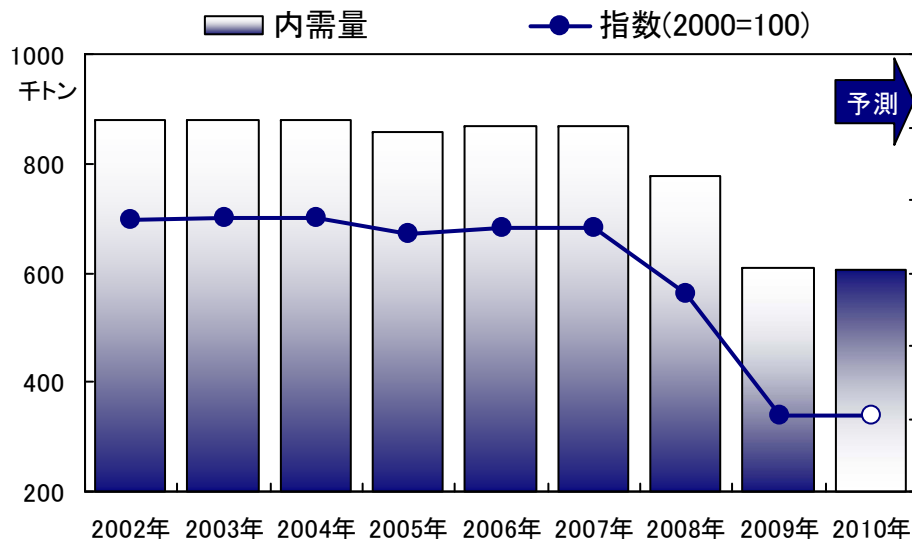
☆洗剤は、粉末から液体へ急速に移行しているため、大幅な減少が予想される。

☆ティシュ向けは、景気低迷を背景とした節約志向や、ティシュボックスの小型化等の要因もあるが、大きく減少することはないと見込まれる。

（次頁に続く）

(10) 紙器用板紙ー③

「 2010年予測:主要需要分野の動向」

☆商業印刷は、エコポイント制度やエコカー減税を背景に家電や自動車向けなど一部需要分野は堅調と見込まれるも、その他分野については広告宣伝費削減に伴いカタログ、パンフレット等で減少が継続すると予想される。トレーディングカードは、一部アニメのキャラクター需要等が底堅いものの、大きな伸びは期待できない。

☆出版印刷は、少子化、活字離れといった構造的な要因に加え、定期刊行物の休刊、廃刊、発行部数減も予想され、雑誌の表紙やハードカバーの芯等については依然厳しいと見られる。

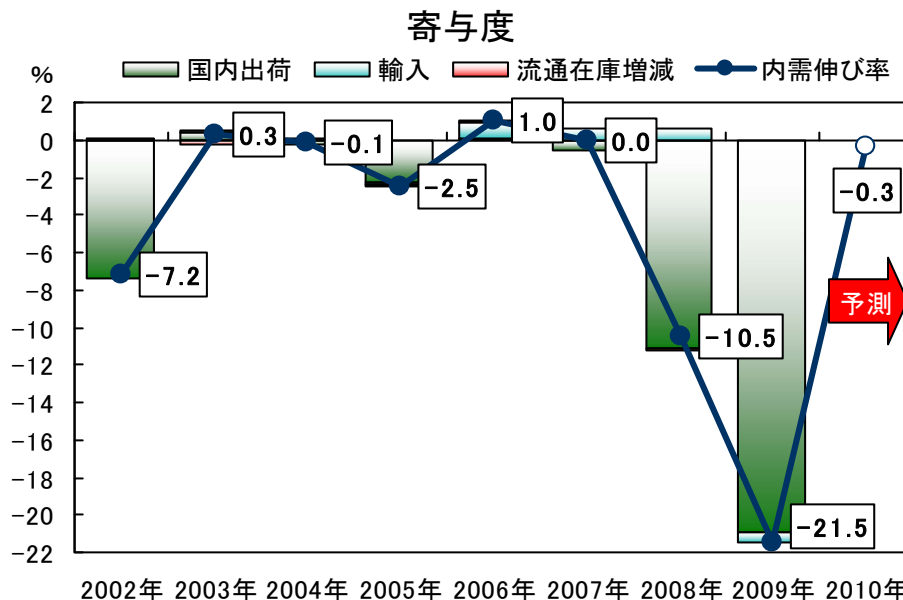
☆文具事務用品は、OA化の進展や企業の経費削減等を背景にファイル類の減少傾向は継続すると見られる。

(11) その他の板紙

「近年の動向」

★その他の板紙の内需は、主要品種の建材原紙が2001年、2002年の住宅着工の低迷等により大きく減少して以降、横ばいないし微減傾向を続けてきたが、2008年は、改正建築基準法の影響等により建材原紙が大幅にダウン、2009年も景気低迷の影響から更に減少し、2割以上の大幅な落ち込みとなった。

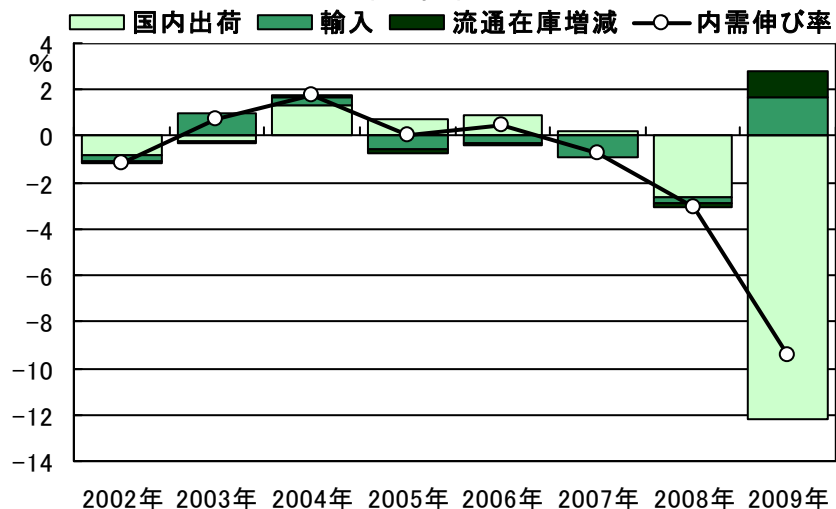
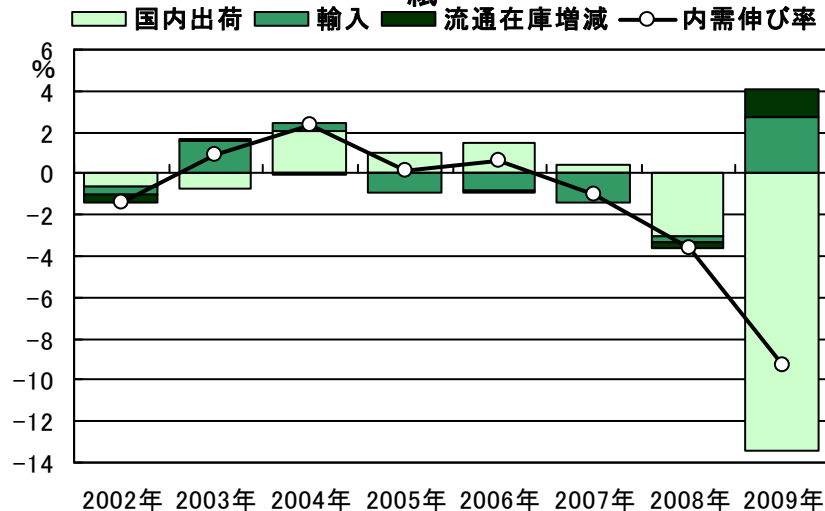
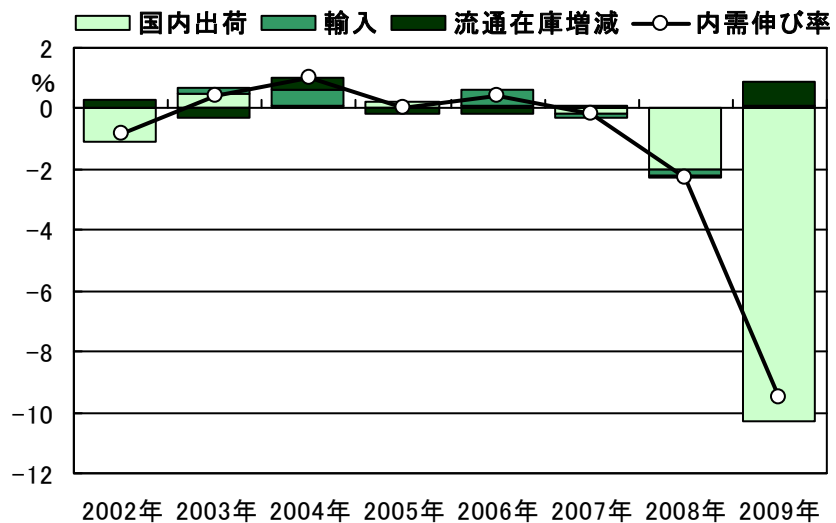
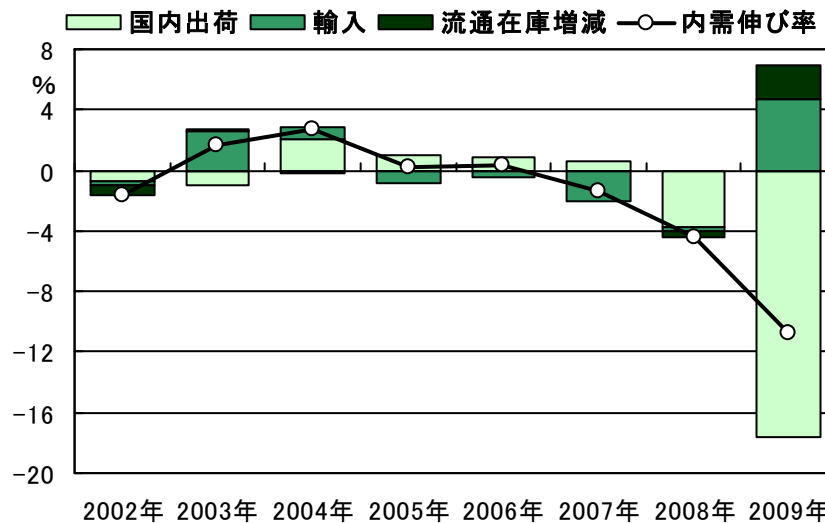
「2010年予測」

☆主要品種について、①建材原紙は、建設・不動産業界は徐々に回復に転じるものの、本格的な回復には時間がかかることから減少が見込まれる。②ワンプについても、製紙各社の印刷用紙の減産継続により減少が見込まれる。③紙管原紙は、ワンプ同様、製紙各社の印刷用紙の減産継続により製紙用は減少するものの、フィルム用は緩やかながらも回復基調にあることから前年の反動により増加が見込まれる。

☆以上を勘案し、その他の板紙の内需は前年に対し0.3%の減少と予測した。

Ⅲ．2009年紙・板紙内需実績見込み

（単位：トン、％）

品種		国内出荷	前年比	輸入	前年比	計	前年比	流通在庫増減	内需計	前年比(A)	09年連合会内需予測(B)	伸び率誤差(A)-(B)
紙	新聞用紙	3,370,853	94.6	42,601	60.7	3,413,454	94.0	0	3,413,454	94.0	93.6	0.4
	非塗工印刷用紙	2,328,257	87.2	198,305	102.3	2,526,562	88.2	▲ 54,966	2,581,528	91.2	89.7	1.5
	塗工印刷用紙	4,838,191	77.1	745,974	269.1	5,584,165	85.2	▲ 114,398	5,698,563	87.5	88.7	▲ 1.2
	情報用紙	1,429,084	86.9	419,926	115.1	1,849,010	92.0	▲ 972	1,849,982	92.0	93.8	▲ 1.8
	印刷・情報用紙計	8,595,532	81.1	1,364,205	163.2	9,959,737	87.1	▲ 170,336	10,130,073	89.2	89.9	▲ 0.7
	未ざらし包装紙	475,903	81.4	11,926	367.2	487,829	83.0	▲ 1,107	488,936	83.2	94.9	▲ 11.7
	さらし包装紙	286,665	80.8	1,137	313.2	287,802	81.1	▲ 1,807	289,609	81.7	94.4	▲ 12.7
	包装用紙計	762,568	81.2	13,063	361.8	775,631	82.3	▲ 2,914	778,545	82.6	94.7	▲ 12.1
	衛生用紙	1,776,619	99.4	27,735	103.4	1,804,354	99.5	0	1,804,354	99.5	98.9	0.6
	雑種紙	683,996	86.1	23,414	87.2	707,410	86.1	0	707,410	86.1	92.5	▲ 6.4
	紙　　計	15,189,568	85.9	1,471,018	152.7	16,660,586	89.4	▲ 173,250	16,833,836	90.7	91.8	▲ 1.1
板紙	ライナー	4,907,953	90.6	67,552	84.5	4,975,505	90.5	▲ 36,819	5,012,324	91.4	91.5	▲ 0.1
	中しん原紙	3,271,652	88.7	68,542	373.1	3,340,194	90.1	▲ 24,366	3,364,560	91.0	91.5	▲ 0.5
	段ボール原紙計	8,179,605	89.8	136,094	138.5	8,315,699	90.3	▲ 61,185	8,376,884	91.2	91.5	▲ 0.3
	白板紙	1,443,454	91.5	431,808	95.0	1,875,262	92.3	▲ 14,590	1,889,852	92.8	95.5	▲ 2.7
	黄チップ・色板	149,472	81.9	0	−	149,472	81.9	▲ 1,041	150,513	82.6	95.0	▲ 12.4
	紙器用板紙	1,592,926	90.5	431,808	95.0	2,024,734	91.4	▲ 15,631	2,040,365	91.9	95.4	▲ 3.5
	その他の板紙	594,682	78.6	14,470	75.8	609,152	78.5	75	609,077	78.5	91.8	▲ 13.3
	板　紙　計	10,367,213	89.2	582,372	101.8	10,949,585	89.8	▲ 76,741	11,026,326	90.5	92.2	▲ 1.7
紙・板紙計		25,556,781	87.2	2,053,390	133.7	27,610,171	89.5	▲ 249,991	27,860,162	90.6	92.0	▲ 1.4

Ⅳ．参考①サプライ別内需寄与度の推移

参考②

内需の定義

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙に類似した紙製品」としてトイレットペーパーとミルクカートン用紙（ポリエチレンラミネートしたもの）を含めている。

内需量 = 国内出荷量 + 輸入量 + 流通在庫量の前年比増減量

予測の仕方

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算しているが、一部品種については回帰分析等統計的な手法を採用している。

参考1.経済見通し

機関別	政府		民間23機関平均値	
	FY2009	FY2010	FY2009	FY2010
実質GDP	▲2.6	1.4	▲2.8	1.2
鉱工業生産	▲11.2	8.0	▲10.2	8.1

民間23機関の平均値は2009年7～9月期2次QE後の改定値

国際機関の暦年見通し

実質GDP	CY2009	CY2010
OECD	▲5.3	1.8
IMF	▲5.4	1.7

発表日：OECD 09.11.19、IMF　09.10.1

参考2.紙・板紙内需の対実質GDP弾性値

データ期間	紙・板紙合計	紙	板紙
過去10年間（99～09年）	0.08	0.15	▲0.03
過去5年間（04～09年）	0.89	0.87	0.93